

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.834 2024

2024年3月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

能登半島地震 高齢化した半島で

大阪YMCA学校事業部長、ユース事業部責任者
グローバル事業グループ長 山根 一毅

能登半島地震で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

YMCAは1月7日から、石川県が「いしかわ総合スポーツセンター（金沢市）」に設置した「1.5次避難所」にスタッフを派遣しています。「1.5次避難所」とは、「1次避難所」で暮らすことが困難な高齢者や障がいのある方、妊婦、乳児などが、2次避難所に移るまでの中継地点として滞在する避難所です。YMCAは、内閣府およびJVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）からの要請を受け、熊本地震などでの支援経験を活かして、この避難所で運営アドバイザーを担うことになりました。

要配慮・要支援者だけが集まる大規模避難所、しかも高齢者が9割を占めるという状況は、これまでの被災地では例を見ません。また、現実には滞在が長期化しており、一人ひとりの医療・保健・福祉的ケアには、医師や看護師、保健師、介護士、ソーシャルワーカーなど多くの専門家による支援が必要です。また、それら専門家たちの連携を築き、チームとして力を発揮できる体制を作れなければ、避難者の命や生活は守れません。YMCAは災害救援を専門とする団体ではありませんが、日ごろからボランティアコーディネートをしている団体として、県職員の方や各専門家と共に最善の支援ができる体制作りに取り組んできました。

避難所では、避難者も支援者も日々入れ替わりますし、被災地の状況も刻々と変わります。その目まぐるしく変化する状況下で確実なケアを提供すると同時に、2次避難へと繋げるために、私たちは医療と福祉の両面でのように避難者を支えるかを話し合う連携会議を定期的に行っています。また、避難者の体調やニーズを共有するために、ICTの専門家の協力も得て情報管理システムの整備にも取り組んでいます。

これまでの災害復興支援での経験や他団体とのネットワークにより、授乳室や子どもの遊び場を設けたり、ペットの居場所を確保するなど、環境の整備にも配慮。「避難所の扉が重くて開けにくい」「足が悪くて足踏み式の消毒薬を使えない」など、日々の困りごとを見落とさない「アリの眼」も持つよう心がけています。

「災害から生き延びた命を、避難生活で失ってはいけない」と、メディアでも言われています。災害に限らず、一人ひとりの命を大切にすること、人権を尊重することがYMCAの原点です。「避難所は不便でも仕方ない」と避難者に我慢を強いるのではなく、避難生活のQOL（生活の質）を高めていけるよう最大限の工夫をするのが私たちの役目だと思います。避難所の初期の食事はパンやおにぎりになる場合が多いですが、金沢市内ではレストランも営業していましたので、ビュッフェ形式でご自身の体調に合った好きな食べ物を選んでいただくことも可能では、とアドバイスしたこともありました。私たちがどんなに力を尽くしても、自宅より快適な避難所は作れません。そんな状況下でも、避難者が次のステップを踏み出す力が湧いてくるようにサポートしていくのが、私たちの使命だと考えます。

1月24日からは東京YMCAが、輪島市の避難所サポートを開始しました。支援が次のフェーズに入ったら、富山YMCAを中心に全国で協働しながら、子どものリフレッシュプログラムやシニア向けのカフェ、健康体操などを実施予定です。東日本大震災の際にもYMCAは、こうしたプログラムを数年にわたって実施しました。心の復興には歳月がかかります。能登半島の方々が、失われた日常を再建していく道のりに、寄り添ってほしいYMCAでありたいと思います。

（1月29日 聞き手：編集部）

YMCAの支援活動の詳細はこちらのホームページをご覧ください▶
https://www.ymcajapan.org/noto_sien/



ウクライナ避難者支援

軍事侵攻から2年 人間の復興のステージに向けて

ロシアによるウクライナの軍事侵攻から2年が過ぎました。YMCAでは約1300人のウクライナ避難者の支援を通して対話してきましたが、今年1月からは、「輪島の地震の被害を受けた子どもたちに洋服を送りたい」「私たちウクライナ人は寒いのが雪道は得意です。手助けできることがあったらいつでも知らせてほしい」と多くの連絡が寄せられています。ある日突然、それまで送っていた普通の生活が完全に寸断されてしまう。学校も仕事も、コミュニティのつながりも全部ゼロになり、人生のやり直しを迫られる。戦争と災害では異なりますが、ウクライナからの避難者にとって地震で被害に合われた方々の置かれた状況は、とても見過ごすことのできないものなのです。もちろん、少しでも日本社会に返返し、

一人で避難してきた18歳の男の子が語ってくれました。「家族はウクライナを離れられないので、高校卒業前、徴兵目前に一人で避難して来ました。日本での生活は心細くはないですが、深く付き合える友人や知り合いが作りにくいのが悩みです。日本語がまだあまりうまくないということもあります。それ以上に、周りから“一時的に避難している人”“いずれどこかに行ってしまう人”と見られているような気がするのです」。本来いるべき場所、あるべき人間関係から、突然に引き離されてしまったときに、人が直面する孤独感、不安感に、私たちができる支援、伴走とはどのようなものでしょうか。

最近では、日本の最新技術をウクライナ本国の復興に生かそうというテーマで、フォーラムやビジネスセミナーといったイベン



中高生対象デイキャンプ@YMCA東山荘

トも行われています。ウクライナは急速に発展した国で特にIT分野では日本より進んでいますが、たとえば障がい者福祉はまだ遅れています。日本のバリアフリーや交通機関等での配慮、発達に課題のある子どもたちへの細やかな教育に驚く方、日本の最新の義足・義肢の技術を学びたいという方がいます。世界中どこにいても、ウクライナの方々が自分の居場所を得ることができ、これからの先の生きる目的を見出せるようになること。「人間の復興」を語るべきフェーズに入ってきました。どうか、引き続きご支援をお願いします。

小池百合子都知事から招待 ウクライナ各地の市長も来日

2月9日、東京都在住のウクライナ避難民とその家族が小池百合子都知事によって都庁に招待されました。ウクライナ国内の市長などによる「ウクライナ市長クラブ」も来日し、総勢約180名の会となりました。
避難民からは、日本、東京がすでに第二の故郷になっていること、住宅から教育まで東京都、そしてYMCAをはじめとする各種支援団体からのサポートを得ていることに感謝が述べられ、「これからは少しでも日本に恩返しをしたい」との抱負も語られました。

ウクライナの市長らは、都知事に対して引き続き支援を求めるとともに、「日本で暮らす皆さんが、日本とウクライナの架け橋となり、ウクライナの復興、平和の実現を担う人となることを信じています」と応答しました。

日本YMCA同盟 横山由利亜

ウクライナ支援関係の詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.ymcajapan.org/ukraine-ymca-stands-for-peace-ymca-works-for-peace/>



2023年度 日本YMCAユースボランティア認証者

今年度は17YMCAから338人がYMCAの担い手として仲間に加わりました。
1994年から認証制度開始。これまでの認証者総数は18,655名

〈YMCAボランティアの定義〉YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に①自らの自由な意志によって（自発性）②主体的に、責任をもって参加し（主体性、責任性）③金銭や名誉などの報いを目的とせず（無償性）④人々や社会のために働き（利他性、社会性）⑤人々と痛みや喜びを分かち合い（相互性）⑥継続的に（継続性）喜んで自らの時間や労力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

北海道YMCA	藤井 結愛花	崎山 祐弥	高橋 怜	前川 心咲	長嶋 叶実	渡邊 晃久	井上 益希	末吉 邦光	浦 瑠希	土谷 早和	飯田 翔
長瀬 幸奈	松永 蒼唯	岡 翔和	武田 葉月	ラナイブソン	三神 直樹	越後 凌空	大家 優理子	石黒 遥	岩谷 望生	富田 彩貴	松本 尚也
加野 誠	松島 里歩	関 沙也香	須川 七星	フルート	梁瀬 丈	宮原 未端来	小笠原 玲奈	堀内 ひなた	古川 葵	藤田 莉子	豊村 友梨
菅 遥香	高橋 梨愛	柴田 姫菜子	金子 実乃里	渡邊 正樹	浅野 宏翔	岩淵 帆花	小笠原 玲奈	清水 芳紘	河田 竜典	三浦 聖太郎	平井 舞子
藤野 結衣	千葉YMCA	霞 衣織	山本 明日香	デワゲナヨミ	高谷 涼太	廣瀬 胡桃	河田 胡春	宮田 果乃	神戸YMCA	三宅 乙枝	青木 莉沙
小林 未来	平山 華	岩淵 穂香	堀 清蘭	ディルケン	草野 瑠偉	溝口 真桜	北口 将直	龍美 琴音	井上 和俊	村上 昂生	中島 尚哉
平澤 彩	藤田 桜彩	和田 陽花	鈴木 彩生	宇高 萌	小泉 琢磨	久瀬 幹翔	久瀬 幹翔	中山 みゆる	松本 陸玖	余田 光樹也	田澤 伸
小林 明日香	美馬 侑佳	桑原 菜々美	小野田 ももの	伊藤 愛翔	二木 海成	栗田 宏弥	栗田 宏弥	川村 日菜子	後藤 颯汰	姫路YMCA	高村 夏
浜上 紗由美	木下 恵水	山崎 夏実	丹伊田 真実	武村 和未	赤池 真太郎	佐伯 勇輝	佐伯 勇輝	西川 潤太	谷川 えれな	塚原 祐磨	向井 裕理
仙台YMCA	比企 奏美	伊勢屋 希貴	並木 暖佳	福見 翔	高橋 葵	富田 小桜	佐々木 拓孝	金子 萌々	長井 万結	泉 彩音	小田 彩莉奈
山下 皓生	高品 玲奈	徳永 岳大	中村 心奏	大淵 大樹	山田 裕梨花	小平 慎吾	佐藤 いろは	大阪YMCA	山下 日瑠	根岸 花奈	榎田 美美
松浦 将哉	山内 治輝	横江 将太	早苗 理紗	安田 祐太	木村 真野	小林 太樹	多田 唯太郎	河上 百菜	大瀬戸 遥	北浦 友愛	熊本YMCA
佐々木 耀子	中村 聡志	山本 隼	香々見 咲	新発田 尚斗	藤倉 康司	市岡 舞己	橘 夏想	池谷 佳菜実	東 咲良	西井 頼沙	本田 幸大
川原 咲弥	藤原 さら	吉田 梨乃	尾崎 朱理	曾根 凜	中澤 のぞみ	瀬尾 舞	田邊 ののか	中筋 千尋	植木 陽香	安友 咲世	徳永 航大
笹倉 千咲希	埼玉YMCA	柴沼 美鈴	飯沼 海	石川 愛花	藤井 大志	杉浦 碧	中川 陽向汰	島 幸之介	上坂 七帆	根岸 花奈	平生 理香子
伊藤 結	新井 隼斗	加藤 未緒子	藤井 大志	加藤 智子	濱田 夏磨	小島 佳奈	服部 拓哉	須佐 神楽	梶本 結香	片山 藍鈴	松尾 空
中澤 夢太	廣岡 裕也	小田 ゆい	西田 優里	北川 知沙	森アレキサンダー	藤谷 京香	前田 ちゆき	中川 卓弥	橋本 恋花	赤木 七瑠	前田 真弥
仲尾 稔	小椋 捺未	坂本 優希	横濱YMCA	坂尻 泰輝	宮本 彰人	中山 莉緒	前田 里紗	宮本 有佐	水澤 琉那	前原 千紘	村上 果鈴
高橋 七海	増田 愛梨	杉田 悠真	北村 遥夏	佐山 彩乃	柴田 一輝	菊澤 智陽	松浦 友紀子	吉村 明莉	湯澤 杏	味野 心南	三島 琉偉
とちぎYMCA	林 美有	丸山 啓太	成田 隆史郎	須藤 百合	須藤 百合	渡邊 楓	溝口 いつき	和田 隆一	吉永 有李	井上 瑞乃	松崎 玄
塩畑 友梨	高野 捺芽	林 菜都美	本山 美樹	山内 颯	山内 颯	鈴木 雄大	森島 明翔	佐々木 凜	東 ラナ桃子	岡田 明音	大田 黒心海
矢部 将吾	阿部 真琴	橋本 侑里香	吉田 るな	栗田 昌男	栗田 昌男	大森 樹	山崎 菜結	中村 花果	占部 里咲	藤井 里帆	村田 流奈
吉田 愛理	横田 いずみ	永岡 美空	秦 智洋	内田 航太	宮本 彰人	西本 真衣	吉田 葵	永山 愛実	戸田 さくら	宮西 美咲	吉田 陽斗
坂田 陽紀	藤木 萌人	川北 詩織	中元 悠花子	熊谷 早記	穂川 咲弥	穂川 咲弥	脇 真輝	佐藤 真陽	中路 珠寿	清田 柚香	浦崎 虹星
佐藤 孝輝	東京YMCA	村岡 悠	林 晃生	江尻 和馬	中村 夢月	中村 夢月	奈良YMCA	井西 彩心	角田 咲哉	角田 咲哉	城本 大雅
船山 友輔	貝瀬 真帆	金子 凜太郎	井戸田 優大	福田 果歩	山田 あかり	山田 あかり	東 花梨	真辺 理子	池田 真以美	安原 紫織	藤本 南海
佐藤 彩華	石井 遥翔	三木 祐弥	井上 弾天	清水 ひかる	伊澤 舞	伊澤 舞	北畑 美月	亀井 みよこ	榎本 彩人	福岡YMCA	匿名1
高木 雅帆	中川 遥	松本 拓也	伊藤 花奈	田山 心美	石渡 陽葉里	石渡 陽葉里	岩崎 七海	櫻井 彩乃	大槻 諒	大野 美咲	
南谷 珠安	宮崎 歩	半澤 絢子	栗飯原 美羽	國本 紗矢	中野 依吹	中野 依吹	安田 真理	大崎 愛深	黒川 華	増田 かのん	
坂 侑里奈	君塚 叶羽	宮脇 由依	八木 蒼空	大道寺 翔	角田 沙弥	角田 沙弥	高畑 朋佳	大森 彩加	小林 美那	田中 菜々実	